

年 頭 所 感

一般社団法人 京都府タクシー協会

会 長 兼 元 秀 和

新年あけましておめでとうございます。令和3年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大で年百年中タクシー事業は影響を受け、感染防止対策に時間を費やした一年でした。現状を振り返りますと、営業収入は5月が底で、京都市域地区が対前年同月比85%減少、京都北部地区も60%減少いたしました。6月19日の移動自粛全面解除後も緩やかな回復に過ぎず、11月末までの年間を通しても地域差はありますが、京都市域地区が前年比52%減少、京都北部地区も31%減少いたしました。さらに高齢者の重篤化を背景に高齢乗務員の離職が目立ち、府下全域の11月末乗務員への運転者証交付数は7,724人と令和2年当初に比べ772人減少し、甚大な影響が長期継続するなど、未だかつて経験したことのない環境に加え、人口減少による少子・高齢化の進展で、経営環境は大変厳しい状況に置かれました。

さて、タクシー業界においては、IoTシステムの急速な進展にともない、新たな技術を駆使したMaaS(Mobility as a Service)・DX(Digital Transformation)

や自動運転技術の実用化に向けた対応に加え、事業活性化のための配車アプリ・キャッシュレス決済機や事前確定運賃・一括定額運賃の導入、さらにユニバーサルデザインタクシーをはじめ乗合タクシーなど、様々なサービスメニューの充実が求められると共に、コロナ禍で最大のダメージを受けたフォーリンフレンドリータクシー活性化への取り組みは、具体的な対応が求められる喫緊の課題となっています。

アフターコロナを見据え、タクシー業界も積極果敢にトライし、時代の変化に応じた柔軟な対応が求められていますので、取り組む姿勢如何によっては、存在意義と真価が問われる大変厳しい一年になるものと考えています。

こうした厳しい環境に積極的に挑むため、本年の重要な課題として取り組むべき主な事項について、簡単にご披露申し上げます。

まずは、他の輸送機関と連携して地域公共交通の役割をしっかりと果していくための取り組みです。

分かりやすい運賃として、車種区分を普通車に統一し、初乗り距離を短縮して手ごろな運賃額を設定した「ちょい乗りタクシー」を府下一円で導入し、公共交通機関として気軽にご利用いただく環境整備を図りました。コロナ禍で需要が少なくなった今、利用促進を図るためには、地域に密着した府下の地方自治体との連携強化が必要になります。会長就任当初から、できる限り多くの市町村を訪問し、地域の輸送ニーズを把握する

と共に、各地域で設置された地域公共交通会議に積極的に参画し、タクシーへの信頼を構築していく努力を積み重ねてまいりました。また、地域によってはタクシーの手薄な地域もありますので、実情をつぶさに把握し、「タクシーに出来ることはタクシーが」を前提としつつ、議論を重ねることが重要になります。さらにシェアリングエコノミーに名を借りたライドシェア合法化への動きを意識し、こうした隙を見せない取り組みを継続することが、ライドシェア阻止に繋がると確信いたしますので、引き続き地方自治体との連携強化を図るため、積極的に行動してまいります。

次に、タクシー業界の将来を支えていただける優秀な人材を獲得していくための取り組みです。

人口減少による少子・高齢化の進展はとどまることを知らず、タクシー業界においても乗務員不足をはじめとする人手不足は、その深刻さにおいて極めて重要な課題となっております。

例年8月の「タクシーの日」に関連した行事を活用するなど、積極的に市民の皆さんにタクシーの魅力とその果たすべき役割を明らかにしながら、魅力あるタクシー産業とするために質の向上と活性化を推進する必要があります。また、長時間労働の是正等働き方改革に積極的に取り組み、求職者に「見える化」を図る「働きやすい職場認証制度」の積極的な活用を通じ、就職氷河期世代の方々などにタクシー乗務員の魅力を積極的に広報してまいります。

コロナ禍で厳しい環境にありますが、嘆いてばかりでは何も解決しません。苦しい今だからこそ、知恵を寄せ合い互いに協力して、課せられた重大な使命であります安全・安心を大前提に、府下のあらゆる地域で生き生きと躍動するタクシーが、利用者の皆様から公共交通機関としての厚い信頼を得られる一年となるよう、法人・個人あるいは会社間の垣根を越えて、まさに「コロナに負けるな、オール京都」を合言葉に、創意と工夫にあふれた積極的な取り組みを行ってまいります。

会員の皆様におかれましては、どなたでも協会へのご意見や諫言を賜り、京都のタクシー事業運営の安定化と活性化に向け、お力を貸していただきたいと存じます。本年が皆様方にとり、充実した一年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上